

Title	法学研究第五十一巻(昭和五十三年自一号至十二号)総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1978
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.51, No.12 (1978. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19781215-0099">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19781215-0099</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 法学研究 第五十一卷 (昭和五十三年) 総目次

## 論 説

	号数	頁	通頁	執筆著者
取締役会社間の取引の効力……………	一	一	一	高鳥正夫
強制執行における裁判の既判力……………	一	二五	二五	高鳥正夫
『横田喜三郎コートにおける最高裁判所裁判官の司法行動』……………	一	四〇	四〇	石川明著
イギリス家族法の重層構造……………	二	一	一一五	大沢秀介
——特に離婚・別居をめぐり——				人見康子
民法四六七条における一項と二項との関係……………	二	二五	一三九	池田真朗
復代理人の地位に関する一考察……………	三	一	二四五	林脇トシ子
高田保馬の勢力理論……………	三	二五	二六九	霜野寿亮
——権力論の概念枠組を求めて・序論——				
ハンナ・アレントの政治と人間についての考察……………	三	四八	二九二	寺島俊穂
——活動・リアリティ・公的空間の思想的意味——				
ASEAN統合の現状と展望……………	四	一	三八一	松本三寅
——国連における投票行動の分析——				
テレビとラジオによる選挙報道と選挙人の視聴動機……………	四	二四	四〇四	鶴木真
——昭和五二年参議院通常選挙における結果——				
ワイマール精神史研究の前提……………	四	五一	四三一	蔭山宏
——「保守革命」論研究①——				

吹田事件（一八八〇年）の史的回顧……………五九

刑法学研究の基礎……………五一

——一九世紀ドイツ刑法学の論文集成を終えて——

新入会成立の背景……………八九

明治初期における政府司法機関の律逸文採集事業について……………一一

アノミーおよび疎外概念による投票行動の計量分析……………一三九

——無党派層と若者の政治意識——

日本人の中国観……………一七七

日本陸軍と普選運動……………一九三

——在郷軍人選挙権獲得運動を中心として——

大本管陸軍部の一資料よりみたソ連の対日参戦問題について……………二二九

政治的決定作成の分析視角……………二五三

アメリカにおける違憲立法審査権とデモクラシー……………二八一

購読紙と政治意識……………三一

ソ連共産党の政治局……………八五三

——一九五七年の政治局と一九七七年の政治局の比較研究——

国際海峡における通航制度の新局面……………四九

——第三次国連海洋法会議の趨勢と日本の立場——

いわゆる海面下の土地所有権について……………一

西ドイツのエネルギー供給確保法（七三年）……………二七

マルシリウス・パドヴァの神法理念……………一一

シモーヌ・ヴェーユの道、あるいは生きられた思想についての素描……………二二三

アメリカの対サウジアラビア政策……………二六九

——一九四一年—一九四五年——

富田 広士……………

奈良 和重……………

鷲見 誠一……………

藤原 淳一郎……………

新田 敏……………

内山 正熊……………

宮澤 浩一……………

酒井 正勝……………

利光 三津……………

藤田 弘道……………

小堀 良彰……………

池井 徳行……………

藤井 徳行……………

寺崎 修……………

曾根 泰教……………

大沢 秀介……………

前田 寿一……………

中沢 精次郎……………

栗林 忠男……………

新田 敏……………

藤原 淳一郎……………

鷲見 誠一……………

奈良 和重……………

富田 広士……………



ユーロピアの意味……………

十 二七 一三七一

バルナ・ホルバート

ドイツ連邦共和国における基本権の現今の問題……………

十 五七 一四〇一

原秀男  
ヴァルター・ルド

法獲得の問題……………

十二 一七 一七〇五

青柳幸一  
ファイリップ・ヘック著

イタリア妊娠中絶法……………

十二 五八 一七四六

津田利治  
中谷千穂  
松浦誉子

——一九七八年五月二日の法律第一九四号——

### 研究ノート

西ドイツ刑事訴訟法における一事不再理の効力の客観的範囲について……………

九 七五 一二九七

安富 潔

### 判例研究

〔商法〕 一七五 一人会社の代表取締役に対する監視義務を怠つた名目的取締役に対する

一 九七 九七

加藤 善修

会社破産管財人の損害賠償請求と信義則……………

一 一〇一 一〇一

梅 善夫

〔最高裁判例研究〕 一五一……………

一 一〇六 一〇六

安富 潔

〔刑訴判例研究〕 七……………

一 一〇六 一〇六

安富 潔

〔商法〕 一七六 船舶保険普通保険約款における人的不堪航の成否と被保険者の過失の要

二 九三 二〇七

久留島 隆

否等……………

二 九三 二〇七

伊東乾・高木信彦

〔最高裁判例研究〕 一五二……………

二 九九 二一三

伊東乾・高木信彦

〔刑訴判例研究〕 八……………

二 一〇五 二一九

斎藤 和夫

〔商法〕 一七七 従業員持株制度加入株式についての譲渡制限契約の効力その他……………

三 一〇三 三四七

宮島 司

〔最高裁判例研究〕 一五三……………

三 一一〇 三五四

宗田親彦・石丸秀範

〔商法〕 一七八 職務執行停止仮処分中であらたに選任された代表取締役の権限……………

四 七六 四五六

倉沢 康一郎

〔刑法〕 五三 刑法三六条における侵害の急迫性……………

四 八〇 四六〇

安富 潔

〔最高裁民訴事例研究〕 一五四	四	八六	四六六	本田 耕一
〔商法〕 一七九 約束手形の振出人と所持人のみの合意により、変更された支払場所においてなされた提示の効力	六	九一	九四三	小宮山 宏之
〔最高裁民訴事例研究〕 一五五	六	九五	九四七	本田 耕一
〔刑訴判例研究〕 九	六	一〇〇	九五二	安富 潔
〔商法〕 一八〇 約束手形の振出と商法二六二条	七	一〇五	一〇七九	米津 昭子
〔最高裁民訴事例研究〕 一五六	七	一一一	一〇八五	坂原正夫・中出一雄
〔刑訴判例研究〕 一〇	七	一一四	一〇八八	安富 潔
〔商法〕 一八一 代表取締役の権限濫用行為と相手方に対する会社・取締役の責任	八	八四	一一九四	黄 清溪
〔最高裁民訴事例研究〕 一五七	八	八九	一一九九	梶 善夫
〔刑訴判例研究〕 一一	八	九四	一二〇四	青柳文雄・峯村隆二
〔商法〕 一八二 非公開株式の新株発行価額が「特に有利なる発行価額」に当るとする証拠がなく、その新株発行が「著しく不正なる方法」によるものでもないといとされた事例	九	一〇六	一三二八	阪 埜 光男
〔最高裁民訴事例研究〕 一五八	九	一一四	一三三六	栗田 陸雄
〔商法〕 一八三 取締役が妻の債務について個人として連帯保証すると同時に、会社代表者としてなす連帯保証と商法二六五条	十	六八	一四二二	高鳥 正夫
〔刑法〕 五四 監禁罪と強姦致傷罪とが観念的競合の関係にあるとされた事例	十	七二	一四一六	安富 潔
〔最高裁民訴事例研究〕 一五九	十	八〇	一四二四	伊東乾・徳本文明
〔刑訴判例研究〕 一二	十	八四	一四二八	青柳文雄・峯村隆二
〔商法〕 一八四 代位弁済により担保手形を取得した悪意の民事保証人に対する人的抗弁の成否	十二	五八	一七六二	近藤 龍司
〔最高裁民訴事例研究〕 一六〇	十二	六三	一七六七	石川明・永井博士

紹介と批評

チェ・ジン・リー著『日本対中国』……………	一	一一〇	一一〇	増田弘
——戦後の政治的・経済的關係——				
L・マルソン著 中野善達・南直樹訳『野生児』……………	二	一一〇	二二四	霜野寿亮
——その神話と真実——				
義井 博著『日独伊三国同盟と日米關係』……………	三	一一五	三五九	池井優
——太平洋戦争前国際關係の研究——				
サミュエル・フアーバー著『キューバにおける革命と反動、一九三三—一九六〇』……………	四	九二	四七二	賀川俊彦
——マチャドからカストロまでの政治社会学——				
ハワード・サッチャー著『ヨーロッパの中東撤退』……………	四	九六	四七六	富田広士
——一九三六—一九五四年——				
アンソニー・ギデンズ著『社会学的方法の再構成』……………	六	一〇九	九六一	市川統洋
手塚豊教授退職記念論文集『明治政治史の諸問題』……………	七	一一八	一〇九二	高柳真三
J・R・ラベッツ著中山茂訳『批判的科学』……………	八	一〇五	一一一五	内山秀夫
——産業化科学の批判のために——				
中村菊男先生追悼論文集刊行会『中村菊男先生追悼論文集』……………	九	一一八	一三〇四	殿岡昭郎
牟田口義郎著『中東への視角』……………	十	九九	一四四三	富田広士
栗林忠男著『航空犯罪と国際法』……………	十二	八三	一七七一	山本草二
隅谷三喜男・古賀比呂志編著『日本職業訓練發展史』(戦後編)……………	十二	八九	一七七七	川合隆男

特別記事

島谷英郎先生追悼記事……………	二	一一五	二二九	
藤原守胤先生追悼記事……………	三	一一九	三六三	

李石善氏學位請求論文審査報告	.....	四一〇二	四八二
峯村光郎先生追悼記事	.....	一〇七	四八七